

「空から見る税金」

大阪星光学院中学校 3年 奥谷 漱有

小さな頃からよく各地の航空祭に連れて行ってもらった。航空祭の花形ブルーインパルス、白いスモークとアクロバット飛行で空に様々な模様を描く。映像ではなく実際に近くで観ると、轟音と共にパイロットが人間業とは思えない操縦技術で観客に感動を与えてくれる。ただ、航空祭の開催には各基地への理解を深めてもらうという目的もあるようだ。

なぜ基地への理解が必要なのか、それは基地の全てが税金で賄われているからだ。

自衛隊に配備されている戦闘機の価格は一機あたり百億円以上で、維持費や一回空を飛ぶだけの燃料でも膨大なお金がかかる。自衛隊の運用費用は防衛関係費と呼ばれ、令和六年度の国の歳出の約七%を占め、近年は増加傾向にある。

ただ国の安全保障や防衛政策はとても重要だと僕は思う。今平和な暮らしができて日本には、島国という立地やアメリカ軍基地の存在も大きいと思うが、自衛隊による防衛力が必要だろう。そういう面では、防衛関係費が一番遠いところで使われている税金に見えるが、実際は一番身近で大切な税金ということになる。

平和というものが、本当に握手と言葉だけで解決できるのであれば問題ないが、実際には複雑な利害関係、領土や資源の問題などがあり、自分の国は自分で守る精神でいなければならないのだ。防衛力は一朝一夕で備わるものではなく、長い年月の積み重ね、そして新しい人材を育てるリレーが必要になる。

僕がこのように理解するようになったのも、各地の航空祭に連れて行って貰って、自衛隊の仕事の一部を見てきたからである。展示や基地の見学程度であっても、やはり実際に見るということは貴重な体験であり、日々厳しい訓練をされている自衛官の方々の姿勢や所作などを見ると、僕自身が気が引き締まる思いになる。しかし、訓練中の戦闘機の轟音だったり墜落事故の可能性であったり、基地近隣の住民の理解の必要性の実際に行ってみるとわかる。直接国防に使われているわけではなくとも、国民に理解してもらうために使われる税金には多大な意義があるだろう。よって、ブルーインパルスを飛ばすために使われる税金には次世代の自衛隊を形成し、国民全体で国を守るようにするという役割があるのだと思う。

僕たちが払う税金が、自分たちと関係の薄いところに費やされるのには納得いかないこともあるだろう。だからブルーインパルスの存在意義などについて言及されることも多いが、防衛関係費に関わらず、必要のないところに税が使われることなどないと自分でも理解できるように知識を深めることが必要だと感じた。あまり知られていない税の利用先についても認識しておくことが大切なのだろう。